

身障 いわて



社会福祉法人 岩手県身体障害者福祉協会
岩手県障がい者社会参加推進センター

〒020-0831

盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内

発行人 千葉源治

〔電話〕019(637)7636 〔FAX〕019(637)7626

第124号 令和6年1月1日発行

Eメール fks-hon01@iwashin.or.jp



新年の挨拶



会長 千葉源治

謹んで新年のごあいさつを申し上げます

新型コロナウイルス感染症は昨年5月8日以降、位置づけが「1類」から「5類」に引き下げになり、原則季節性インフルエンザと同様の扱いとなりました。

これに伴い、制度などが一部変更になりましたが、マスク着用は個人の判断となりました。医療機関や高齢者施設などの訪問時については、引き続きマスクを着用するなど、場面、場面に応じた感染対策が求められることとなります。

当協会では、去る11月11日に花巻市文化会館で第64回岩手県身体障がい者福祉大会花巻大会をコロナ禍前の大会と同様に開催し、式典等を行い盛会裏に終了することができました。これもひとえに花巻市長始め、ご協力を頂きました皆様に改めて感謝を申し上げます

さて、令和3年5月に成立した改正障害者差別解消法がいよいよ本年4月1日から施行されることとなりました。これまで努力義務とされていた民間事業者による合理的配慮の提供が義務化されますが、法律の実行性をより高めるためには、全市町村における障がい者差別解消に関する条例の制定及び、心のバリアフリーの理解を深める活動が重要です。

そして障がい者皆様並びに日頃よりご支援いただいている福祉団体関係者の皆様と共に、地域共生社会の実現を目指し鋭意努力して参ります。何卒よろしくごお願い申し上げます。

結びに、皆様にとってより良き一年となりますよう
祈念申し上げます年頭の挨拶といたします。



第64回岩手県身体障がい者福祉大会花巻大会 ～ようこそ、銀河鉄道のまち花巻へ～



令和5年11月11日(土)花巻市「花巻市文化会館」を会場に、第64回岩手県身体障がい者福祉大会花巻大会が開催されました。岩手県立花巻農業高等学校生徒「鹿踊り部」の皆さんが素晴らしい踊りで、大会のオープニングを魅了しました。花巻市での開催は、平成23年東日本大震災発生のため延期、その翌年第54回の開催依頼12年後の開催となりました。開催にあたり、花巻市、花巻市社会福祉協議会、県南広域振興局保健福祉環境部他及び、花巻市身体障害者福祉協会のご協力のもと、来賓の皆様を始め、県内市町村支部会員、ボランティア、スタッフ含め、約500名の参加を頂き、盛会裏に終了することが出来ました。改めて御礼を申し上げます。

大会スローガン

- 心のバリアフリーを地域社会に根づかせよう
- 県・市町村身障協および加盟団体の組織強化を図ろう

大会決議

「障がいのある人もない人も共に学び共に生きる岩手県づくり条例」の精神を生かして、ここに第64回岩手県身体障がい者福祉大会花巻大会において次の事項を決議する。

- 一、県・市町村身障協及び加盟団体の連携のもと、組織体制の強化を図ろう
 - 一、障がい当事者参画のもと、障がい関連施策を促進させよう
 - 一、障がい理解の活動を拡げ地域共生社会の実現に取り組もう
 - 一、改正障害者差別解消法の理解啓発の促進を図ろう
 - 一、身体障害者相談員の活用と周知徹底を図ろう
 - 一、市町村における障害者差別解消に関する条例を制定しよう
- 以上決議する

大会宣言

甚大な被害をもたらした「東日本大震災津波」から、12年余りが経過した。

岩手県では復興の先も見据えた地域振興を視野にいれながら、被災者一人ひとりの復興を最後まで見守り、一日も早い復興を目指している中、コロナ禍を越え、ここ花巻市において、県内各地から多くの会員と、被災された会員の参加のもと、第64回岩手県身体障がい者福祉大会花巻大会を盛大に開催することができた。

岩手県身体障害者福祉協会は、時代に応じ、障がいのある仲間の要望を受け、様々な活動を展開してきた。今、障がい及び障がいのある者に対する理解が高まっているなか、障がいのある者の立場から障がい理解の一層の促進に向け、心を一つに活動していかなければならない。

今後、障がい理解に関心が高まるこの機を逃さず、障害者権利条約を踏まえ制定された「障がいのある人もない人も共に学び共に生きる岩手県づくり条例」が目指す共生社会の実現のため、その趣旨を我々自身が理解するとともに、多くの当事者団体と協力しその役割を果たしていくことが重要である。そのためにも、花巻市での大会を契機に、障がい者団体、会員との連携のもと一致団結し行動することを誓い、ここに宣言する。

表彰受賞者の皆様おめでとうございます



知事表彰（更生援護功労者）を受賞した、「白崎 オノエ（花巻市）」さんが、表彰受賞者謝辞を述べました。

（敬称略）

◆ 岩手県知事表彰 ◆

自立更生者

おがさわら たく お 小笠原 拓 生（釜石市） さわ やま こう 澤 山 興 仁（大槌町）
 きとば とし お 木戸場 利 雄（宮古市）

更生援護功労者

たい なか あき お 平 中 昭 夫（九戸村） しら さき おのえ 白 崎 オノエ（花巻市）



◆ 岩手県身体障がい者福祉大会会長表彰 ◆

自立更生者

うえ やま みつ お 上 山 光 雄（宮古市） かな さわ たか し 金 澤 貴 志（宮古市）
 おお むら ただ お 大 村 忠 生（宮古市） こないかわ かず お 五内川 和 男（花巻市）
 うち つぼ ひろ と 内 坪 博 人（久慈市） た さわ な つ 田 澤 ナ ツ（九戸村）

い とう よし ひろ 伊 東 義 弘（宮古市）
 した はた ひろし 下 畑 博（久慈市）
 はやし した おさむ 林 下 修（洋野町）

団体育成功労者

もと だて し ろう 本 館 二 郎（花巻市） こ いわ ひろし 小 岩 寛（大槌町）
 たけ だ つとむ 武 田 勤（日本オストミー協会岩手県支部 宮古市）

援護功労者

すが わら よし かず 菅 原 芳 和（花巻市） こないかわ てい こ 五内川 貞 子（花巻市）

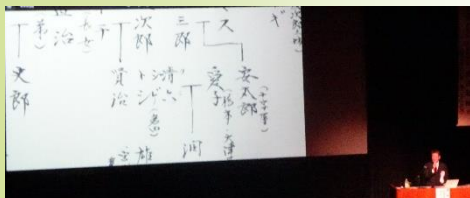


【講演】 🍎 🍌 🍇 🍓 🍑 🍊 🍋

演 題：「祖父 清六から聞いた 宮沢賢治」
 講 師：株式会社風林舎 代表取締役 宮沢 和樹 氏
 （宮沢賢治の弟 清六さんの孫）



宮沢和樹さんは、宮沢賢治の弟（8歳年下）清六さんのお孫さんで、花巻市生まれ、渡英し、大英博物館内図書館勤務、帰国後「風林舎」を開業。宮沢氏は話すことが沢山あり「講演時間が少し過ぎてしまいました」とし講演が終了いたしました。参加した皆さんは宮沢賢治の弟のお孫さんにあたる講演に新たな宮沢賢治の世界観を感じたようでした。



令和5年度「第29回東北・北海道ブロック身体障害者相談員研修会」

11月30日（木）山形県山形市「山形国際ホテル」において身体障害者相談員研修会が開催されました。参加者は103名、内岩手県からの参加は19名でした。基調講演他、各ブロックより7団体の方が発表意見交換会等が行われました。



◆ 基調講演1 ◆

演 題> 「補装具費支給制度等について」
講 師> 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室福祉用具専門官
(義肢装具士) 徳 井 亜加根 氏

◆ 基調講演2 ◆

演 題> 「福祉との連携による障がい者の消費者トラブルの防止に向けて」
講 師> 山形県消費生活センター
消費生活相談員 鈴木 朗子 氏

◆ 意見交換 ◆

テーマ> 「地域の障がい者の生活課題の現状について」
進 行> 社会福祉法人日本身体障害者団体連合会
会 長 阿 部 一 彦 氏

< 発表者 >

(敬称略)

青森県	東 山 国 男 青森県身障相談員協議会長	札幌市	松 田 敦 札幌市身障相談員
岩手県	今 野 紀 子 盛岡市身障協副理事長	仙台市	樋 口 とよ子 仙台市身障相談員
宮城県	金 子 万次郎 栗原市身障協会長	山形県	佐 藤 満 子 山形県身障協会副会長
秋田県	工 藤 守 男 小坂町身障協会長		

テーマについて、7人の方々が約10分程度で発表しました。



次期開催地は札幌市で開催されます。

事業報告



第17回岩手県障がい者ふれあい演芸交流大会

10月1日(日)平泉町「平泉ホテル武蔵坊」で開催されました演芸交流大会には、参加者総勢87名、出演者15組(歌謡部門10組、芸能部門5組)例年より出演者が少なかったのですが、皆さん自慢の唄、踊りなどを発表しました。

司会：一関市身体障害者福祉協議会 事務局長 伊藤 茂 さん
音響：金ヶ崎町身体障害者福祉協会 会長 及川 満 幸 さん
審査員：審査員長 阿部 喜子吉 様 (カラオケ講師)
審査員 岩手県身体障害者福祉協会
会長 千葉 源 治 副会長 皆川 富 雄 事務局長 野辺地 省 吉

審査結果

〔歌謡部門〕



最優秀賞



伊藤 茂 さん
相撲甚句 (一関市)

優秀賞



及川 満 幸 さん
風来坊 (金ヶ崎町)

優秀賞



佐藤 竜 徳 さん
花と竜 (矢巾町)

〔芸能部門〕

最優秀賞



根子 健一 さん
大利根月夜 (花巻市)

優秀賞



菊池 英機 さん
一世一代 (遠野市)

優秀賞



優秀賞 伊藤三智子さん、早乙会 (南部俵積み唄 一関市)

〔特別賞〕

〔団体特別賞〕



歌謡部門
倉沢 良子 さん
男 (遠野市)



芸能部門
佐々木 栄 さん
忠太郎月夜 (矢巾町)



市川利子さん 他
(りんごの唄 遠野市)

令和5年度料理教室

久慈市山形町地区伝統郷土料理 「まめぶと手打ちそばづくり」体験交流会

10月20日（金）、紅葉も所どころ色づき始めた、久慈市山形町の「そばの匠館」において料理教室を開催しました。久慈市身体障害者協議会のご協力のもと、総勢28名の参加を頂き、今回は、そば作りのみ体験することといたしました。

そば粉にとうふ、とき卵で混ぜ合わせながらそばがまとまるまでねり続けます（けっこう力がいります）交代交代でねり、まとまったら棒で伸ばします。均等になるよう向きを変えながら薄く伸ばします。うまく伸ばさないとしわが寄ったり、穴が開いたりします。先生に修正して頂きながらのばし、次にたたんでそばを切ります。細すぎたり太くなったり均等に切るのも大変でした。

それでも味はおいしくできました。そばのおつゆの温かさが体にしみわたりました。



盛沢山のお料理、まめぶ汁、マツタケご飯も！

美味しかったです (^_-)-☆

令和5年度「第38回障害者による書道・写真全国コンテスト」 審査結果について

全国障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）主催による書道・写真コンテストに、全国より1,174点（書道部門941点、写真部門233点（うち、携帯フォトの部84点））の応募作品が集まり、審査員による厳正な審査が行われ入賞作品90点が決定しました。

岩手県からの応募は書道18点、携帯フォト9点の作品を応募いたしました。応募された方々の中から、携帯フォト作品出展の「高橋 準 さん（題名：夏の日）」が「携帯フォト賞」に入賞されました。おめでとうございます。

..... 審査総評

書道部門

今年の夏は、歴史上最高の猛暑日が続きました。そしてコロナウイルスの猛威も下火となり三密などのコロナ対策等の緩和があり、各地の障害者支援活動も本格化しつつあります。これら社会情勢の変化が出品増の一因となったと思われます。

今年度は九四一点という昨年以上の出品数でした。

「書」の古代文字は筆を指で保持する形から成っていて引く、押す、払うなど多彩な動きによって文字の形を成します。この多彩な動きが神経機能を養育発展させることが認められています。

文字を書くことが心や体の育成向上に多くの可能性を含んでいることにより障害者支援の大きな力となっています。

今回の応募傾向は各地の授産施設やセンターからの出品の増加が見られました。書くことの楽しさ、そして継続することによる機能強化に役立てていることが窺えました。出品作からは周囲の力添えの大切さを感じさせられました。重度障害に負けない精神力、そして豊かな心の発露など感動を覚える作品群でした。

渡部 會山
（創玄書道会審査会員、毎日書道展審査会員）

写真部門

第38回障害者による写真全国コンテストに、インフルエンザ・コロナ禍の中、多数のご応募を頂きありがとうございました。身近な光景から雄大な自然まで全国各地の作品が集まり、楽しく拝見させて頂きました。写真は、文化、言葉の違いを越えて、撮影者が、美しい、かわいい、すごいと感じたことを自分だけでなく多くの人に伝えるための表現方法です。何を撮るか、何を表現するか、何に感動して撮影したのか、対象にどれだけ惚れ込んだのかといった撮影者の感性が重要になってきます。撮った時の感動や思いが見る側の心に響く作品には強さがあります。撮影者が対象を伝えたい思い、感動して撮影しなければ鑑賞者も感動しません。人の目は、注意を集中すると、そこだけ大きく見えている感じになりますが、カメラはファインダーに入っている画像をすべて写し込みます。自分が感動したものを強調して撮影することが大切です。写真で伝えることが可能になります。写真は、構図より、シャッターチャンス（決定的瞬間）が大事です。タイミングがずれただけで、内容が変わります。決定的瞬間を捉えるには、事態の変化を予測して直感でシャッターを切ることが大切です。写真表現は自由です。個性や感性、人生観、技を磨き、好奇心を持って、楽しく写真を沢山撮りましょう。2024年に皆さんの沢山の作品のご応募をお待ちしております。

儀 同 政 一 （フォトグラファー）

入賞作品展示会は、令和6年1月6日より全国障害者総合福祉センター、戸山サンライズにおいて展示されます。



第31回岩手県障がい者文化芸術祭

第31回岩手県障がい者文化芸術祭実行委員会が主催する文化芸術祭の応募作品が各部門の審査員の審査により決定した入賞作品他、沢山の作品が11月23日～12月18日まで盛岡市の「ふれあいランド岩手」において展示されました。来館者の方々などが連日作品を見学しておりました。

また、記念式典は同会場のふれあいホールで開催され表彰式等が行われました。令和3年度より、当協会「生命（いのち）の詩基金（文化芸術振興補助金）」より記念品を各部門最優秀賞者に対し贈呈しております。この基金は「障がいを持つ人達への応援基金」です。
(敬称略)

部門	氏名	所属	作品名
絵画部門	吉田悦子	盛岡観山荘病院デイケア室	夕暮れの街
書道部門	堀内育子	盛岡市民福祉バンク	さだまさし～いのちの理由～から
写真部門	佐藤賢	個人	一撃の羽ばたき
工芸部門	阿部庄一	個人	盛岡の情緒
文芸部門	高橋昱子	個人	散歩道

その他当協会関連入賞者の皆様

(敬称略)

- ★絵画部門★ 「努力賞」 小長根 恵 (岩手ワークショップ)
- ★書道部門★ 「佳作」 藤沢友見 「努力賞」 小山敏男 (岩手ワークショップ)
- ★写真部門★ 「特別賞」 菊池英機 (遠野市身体障害者福祉協会)
- ★文芸部門★ 「特別賞」 昆 エリカ (遠野市身体障害者福祉協会)

..お知らせ.....

📍 社会福祉法人岩手県社会福祉協議会主催による、「第76回岩手県社会福祉大会」が、11月16日(木)盛岡市「トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)大ホール」において開催されました。当協会より大会長表彰に推薦いたしました二戸市身体障害者協会「会長 佐藤二郎氏」が社会福祉事業功労者として受賞いたしました。式典では、社会福祉事業功労の被表彰者を代表として佐藤二郎会長が受領いたしました。佐藤二郎さんは年齢90歳、現役団体就任期間13年、グラウンドゴルフ、パークゴルフ等スポーツでも活躍しております。

📍 滝沢市身体障害者福祉協会「会長 塚本潤一氏」が、この度「滝沢市勢功労者」とし功労者表彰を受けられました。

「08年から身体障害者会長を務め、13年から民生・児童委員として障害者らの相談支援に尽力した。」

佐藤二郎様(二戸市)、塚本潤一様(滝沢市) 受賞おめでとうございます

事業のご案内は、約1ヶ月前に県内の支部、身障団体にご案内いたします。

特に事業開催地区及び近隣の方々参加をお待ちしております。

また、当協会ホームページにも掲載しておりますのでご覧ください。

URL <https://www.iwashin.or.jp>

Eメール fks-hon01@iwashin.or.jp

この事業「身障いわて」は(公財)岩手県福祉基金の助成により実施するものです